

地域包括ケアにおける薬剤師の取組み

一般社団法人長野県薬剤師会
会長 日野寛明

団塊の世代が75歳以上となる2025年を目処に、医療・介護・行政・地域が連携して、高齢者が住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最後まで続けられることができるよう「地域包括ケアシステム」の構築が進められている。医師・歯科医師・薬剤師はじめ、保健師・看護師・栄養士等、地域包括ケアに携わる多職種と顔の見える関係を築き、連携・協働し推進していくことが求められている。長野県薬剤師会では、この数年「人に寄り添い、地域とともに歩む」をスローガンに事業を展開してきたが、本講演では「地域包括ケアにおける薬剤師の取組み」についてお話しする。

薬剤師・薬局を巡る状況は「大きな変革期」を迎えている。厚生労働省は2015年、患者本位の医薬分業の考え方を示し、地域包括ケアシステム構築を踏まえて、薬剤師・薬局の将来のあるべき姿を示す「患者のための薬局ビジョン」を公表した。現在の薬局を再編する道筋を提示、薬局の「かかりつけ機能」「健康サポート機能」等を明示している。

具体的な役割・機能は、次の2つである。1つ目は、地域に根ざした「かかりつけ薬剤師・薬局」が医療機関等と連携して、処方箋調剤や一般用医薬品、衛生介護用品等の供給を行い、服薬情報の一元的・継続的把握を行う。患者宅に訪問して薬の指導・管理を行う訪問薬剤管理指導を実践する。2つ目は、健康や介護などに関する相談を幅広く受け付け（ファースト・アクセス機能）、助言を行い、必要に応じて適切な専門職種や関係機関への紹介である。

更に国は、2016年これらを積極的に行う薬局を「健康サポート薬局」として法律上位置づけ、「地域包括ケアシステムにおける地域住民の身近な健康づくりの相談相手」としての役割等を明示した。

長野県薬剤師会では、これらの状況を踏まえ、取組みを行ってきた。長野県は「健康長寿世界一」を宣言、「健康で長生き」の実現を目指し、様々な官民連携の施策を展開している。本会は、厚生労働省から長野県への委託事業等を受託し、医療・介護・行政等関係者と連携して実施、仕組みづくりと事業の定着を推進してきた。主な取組みは以下のとおりである。

「血圧計等を用いた健康サポート事業」では、517薬局が参加し、平均16日間で、県民11,860人に声かけを行い、半数の5,463人が薬局で自己血圧測定を行った。血圧管理を医療機関で行っていない3,292人のうち、検診勧奨898人（27%）、かかりつけ医への受診勧奨490人（15%）であり、生活改善の提案も行われた。県民への啓発と支援、薬剤師の資質向上、他職種連携等、仕組みを構築することが出来た。本県は、様々な健康増進施策を展開しているが、「信州ACEプロジェクト」に参画団体として積極的に関わり、脳卒中対策に少しでも貢献出来ればと思っている。

「医薬品の適正使用に関する相談モデル事業」では、95 薬局が参加。痛み（頭痛、腹痛、腰痛）の相談があった来局者は、平均8日間で、225人であり、一般用医薬品供給156人（69%）、受診・検診勧奨103人（46%）、生活改善の提案33人（15%）であった。不調を訴え、相談依頼される来局者に対して、より適切にどう関わっていくかが課題である。

「薬剤師のおためし訪問事業」は、在宅医療が必要な方で薬学的管理に問題のある方を他職種から声がけしてもらい、同意を得て薬剤師が訪問する事業であった。他職種から在宅訪問の要請を受け、実際の訪問は234件にのぼり、その結果、患者の不安の軽減、服薬コンプライアンス向上等があり、9割を超える他職種から薬剤師との連携が有用であったと高い評価を得ることができた。

「無薬局地域における多職種連携による服薬支援・健康サポート事業」では、長野県内の無薬局8地域にて講演会に220名が参加、お薬健康相談は153名となるなど地域活動を行った。

その他、「禁煙サポート事業」「飲み忘れ防止等に対する服薬管理モデル事業」を実施した。

事業実施にあたって特に留意したのは、「つながり」である。事業実施前には研修会を行い、医療・介護・行政に関わる他職種を講師に迎えた。更に地域での「顔の見える関係づくり」として、多職種参加の「ワールドカフェ形式研修会」を県内13地域で、528人の参加にて開催した。また「認知症対応能力向上研修」への協力、「うつ病及び自殺防止対策研修会」を開催し、ゲートキーパーの育成を目指した。なお、この様な事業を踏まえた上で、長野県薬剤師会認定「信州健康支援薬局」制度を立ち上げ、400を超える薬局を認定し、取組みを実施している。

以上、本会の取組みを述べてきた。地域の多職種と連携し、予防・健康の維持増進から介護までの幅広い視点と対応力を身につけ、地域住民のライフステージを通じた「生活をサポートする地域の身近なパートナー」としての役割を果たすことを目指し、地域包括ケアシステム構築に寄与していきたい。そのためには、「人づくり」「基盤づくり」「つながりづくり」が重要となる。

日野 寛明（ひの ひろあき）略歴

- 1984年 東京薬科大学薬学科卒業
- 1986年 東京薬科大学大学院 医療薬学専攻科 修士課程卒業
- 1986年 東京都内の病院・薬局に勤務
- 1994年 松本市にある日野薬局に帰郷。現在、管理薬剤師・代表取締役
- 2011年 社団法人 松本薬剤師会会長
- 2012年 公益社団法人 日本薬剤師会理事を経て
- 2015年 一般社団法人 長野県薬剤師会会長（至現在）

職務・資格等

- 厚生労働省 関東信越地方社会保険医療協議会 長野部会臨時委員
- 長野県医療審議会委員、長野県地域包括協議会副理事長
- 松本市立芝沢小学校学校薬剤師、認定実務実習指導薬剤師、公認スポーツファーマシスト